

絶滅寸前の群生地

## アズマシロカネソウ群生 (石川県白山市鳥越)

アズマシロカネソウは日本海側に生育する繊細な花である。生育場所は、日当たりがよく、一年中清水が滴るような場所。筆者の地域でも稀な野の花で、20年近く前に偶然群生地を発見した。発見時、ボタニカルフォトの作品を制作していたので、種子の頃まで通って撮影した。

その後しばらく行かなかったが、12年後の2016年4月16日、群生写真を撮影するために訪れ、撮影したのが掲載写真。幅15m、高さ5m程の壁面に、まだ見事な群生が見られた。二年後に大和写真を制作するために訪れ、滴る水との表現に成功した。この時まで、見事な群生が見られたのである。

そして2020年、この年は異常な暖冬で、春の花は2

週間程早く咲いた。全集に掲載する写真を撮り直そうと計画、花の日時は3月20日過ぎと睨んで、ロケハンに3月17日に訪れた。ところが、壁面には数株が見られる程度で、ほとんど激減していたのである。この地では絶滅寸前であった。

思い起こせば、大和写真を撮影した2018年と翌年の夏は歴史的な暑さと小雨であった。おそらく、酷暑を乗り切れなかったものと推察する。

このような現象は、他の野の花でも起きていて、猪の害や愛好者、業者の乱獲と相まって、里山の山野草が、ここ数年で激減している。本書を制作しなければならないと発願した当初の信念を、再び確認する事となってしまった。



アズマシロカネソウのボタニカルフォト



アズマシロカネソウの大和写真

